

防災を学ぶ大学生に

佐伯区でイベント 津波や避難備え確認



参加者から新聞紙でスリッパを作る方法を教わる学生

広島工業大（広島市佐伯区）の学生防災士会が12日、災害への備えの大切さをPRするイベント「楽しく防災学ぼう祭」を同大で開いた。会は学生約50人でつくり、講義や防災士としての活動で得た学びを地域の人と共有しようとして企画した。

親子連れたち約20人が参加。学生は津波や土砂災害に関するクイズを出題したほか、新聞紙を使った簡易スリッパを一緒に作って交流した。両親と弟と参加した安佐南区の小学1年間圭佑さん（7）は「10センチの津波でも立っていられないなんて」と驚いていた。

2016年4月の熊本地震を経験した熊本県荒尾市出身の環境学部3年落合七海さん（23）は、小さな毛布が避難時の防寒に役立ったことなどの実体験をパネルで紹介した。落合さんは「参加者から『毛布を準備します』という声を聞き、伝える大切さを実感した」と手応えを強調した。

同大は2020年度から、学生を対象に防災士の養成講座を開いている。（高橋寧々）